

地域包括ケアシステムの充実を目指して

この地域リハビリテーション支援センターだよりが届く頃には、満開の桜の時期も終わり、新緑の季節が進んでいると思います。私どもも新たなスタッフを迎え、新年度をスタートしました。

今年の元日夕刻には能登半島で震災が発生し、大変な被害が出ました。正月の最中にテレビ画面で生々しい報道が繰り返され、3ヶ月経った今でもライフラインが復旧せず、日常生活とは程遠い状況の方も多くいらっしゃるようです。この数十年を振り返ると、日本国内では1995年の阪神淡路大震災、2004年の新潟県中越地震、2007年の新潟中越沖地震、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、2019年の山形県沖地震など、度々地震災害が発生しています。国外では4月3日に台湾東部で大地震が発生しました。また、今後予想される国内の巨大地震としては、日本海溝・千島海溝地震、首都直下型地震、南海トラフ沖地震が国の地震調査委員会より発表されています。さらに地球温暖化の影響か、日本各地で風水害による大きな被害も発生しています。国の豊かさと便利さが進むほど、それが破壊された時の被害の大きさを痛感するばかりです。

近年、国や自治体などの行政が取り組んでいる、地域リハビリテーションの中核をなす地域包括ケアシステムの充実が重要な課題となっています。なぜならば、地域包括ケアシステムは究極の災害対策と言われているからです。国や県だけでなく市町村でも、地域包括ケアシステムに取り組む部署が毎年の計画のもとに地域社会における住民の生活を豊かにするだけではなく、自助、公助、共助そして互助の精神を実践できる地域社会の構築を目指しています。すなわち、「自分自身で備える(自助)一人ひとりの役割」、「地域で助け合う(共助)地域の役割」、「行政が行う(公助)行政の役割」そして「高齢者など弱者への配慮(互助)福祉の役割」が住み慣れた地域社会で実践されるよう、様々な場面で取り組まれています。

難しい話に聞こえるかもしれませんが、要は自分でできることは自分で行う、助けが必要な時は当たり前のように手を差し伸べるということです。リハビリテーションは、自分の安全域を確認しつつADLの拡大を目指し、手伝いは最小限で済むよう個々の人が努力するための手法です。災害現場の報道を見るたびに、地域包括ケアシステムの精神を思い起こし、現場での活動と皆さまの思いが繋がるように願っています。

今後も皆さまのご協力をいただきながら、地域包括ケアシステムの充実を目指し、より良い地域社会を築いていくために、取り組んでまいります。



地域リハ支援センター 職員紹介

地域支援室メンバー

些細なことでも結構ですので、まずはお電話での相談をお持ちしています。よろしくお願いします。
(SW 小川)

今年度もコツコツ仕事に邁進したいと思います。令和6年度のリハビリテーション研修年間計画をHPにも掲載しました。多くの方のご参加をお待ちしております！
(事務 砂川)



立場が変わりましたが、また支援センターで活動することになりました。これまでの現場経験を活かし、地域のリハビリテーションを推進するために地域の支援者と協力して取り組んでまいりたいと思います。
(室長 PT 小泉)

今年度より異動してきました作業療法士の吉澤です。支援者の皆さまの声をより多く反映できるように活動したいと思います。よろしくお願いいたします。
(OT 吉澤)

地域支援室に異動して2年目になります。地域のニーズに応えられる活動を、昨年度以上にがんばりたいと思います。今年度もよろしくお願いいたします。
(PT 有馬)

今年度も地域リハビリテーション支援のお手伝いができる事になりました。副所長職は離れますが、引き続き、地域と一緒に医療・介護・障害福祉等の垣根なく地域リハビリテーションの深化・推進に夢を追いかけて行きたいと思えます。
(参事 磯部)

高次脳機能障害は社会参加が目標の一つであり、初回入院だけでは支援は終わりません。地域機関と協力しながら有効な支援を進めたいと思えます。今年度もよろしくお願いいたします。
(室長 リハビリテーション科医師 青木)

高次脳機能障害支援室メンバー

少しでも皆様のお役に立てるよう、日々努力していきたいと思えます。よろしくお願いいたします。
(公認心理師 斎藤)



利用者、地域の方に職業リハという立場でお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。
(職業指導員 今野)

今年度も引き続き、高次脳機能障害支援室の所属となりました。当事者の方やご家族、地域の支援者の皆様と一緒に、医療面だけでなく、生活のことなども含めた様々なところで関わられたらと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。
(SW 植西)

今年度も高次脳機能障害支援室に配属になりました。日々の生活の中で様々な悩み事や相談事があると思えますが、お気軽にご連絡いただけたらと思えます。若さを生かして頑張ります。よろしくお願いいたします。
(SW 奥山)

今年度も引き続き、高次脳機能障害支援室のメンバーとして地域の支援者の皆様とともに活動に注力していきたいと思えます。よろしくお願いいたします。
(高次脳機能障害相談支援コーディネーター 永井)

私たちだけではなく、皆様と一緒に支援していくことが必要だと考えています。相談、悩み、情報共有等、何でも結構ですのでお気軽にご連絡いただければと思えます。今年度もよろしくお願いいたします。
(高次脳機能障害相談支援コーディネーター 佐藤)

2023年度 地域リハビリテーション連携構築推進事業

In 逗子

(逗子市役所)

地域生活を続けるための視点と提案

1月19日(金) 18:00~19:30

第1部は、『介護予防・生活期領域におけるフレイル対策 ~多職種連携の必要性~』をテーマに神奈川県立保健福祉大学、理学療法士の平瀬先生に講演を行っていただきました。

参加者の声

- *フレイルについてしっかり理解できた。過去一番わかりやすかった。通いの場、地域サロン、活動の場がいかに大切か再確認できて安心しました。
- *フレイルの概念がよく理解できた。フレイルの対策として多職種が連携して身体活動をいかに促進することが重要であり、課題だと感じた。
- *フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドロームの違いについて解説がとても理解しやすく大変参考になりました。

2月22日(木) 18:00~19:45

第2部は、神奈川県リハビリテーション支援センターの利用方法を中心に、実際の相談事例を通じて、地域の方々の困りごとや相談と一緒に検討していくプロセスについて紹介しました。

またグループディスカッションでは、日常業務での課題解決方法や当センターへの要望などについて意見交換を行いました。

参加者の声

- *具体的な相談内容を提示していただいたので、相談する際の目安になりました。
- *相談先があることが知れて、とても心強かったです。
- *地域に難しい事例がたくさんあることを知りました。どこに相談したらいいかわからない人が多いと思います。

コロナ禍から定期的に市内の事業所からご相談いただき、地域内でもこのようなやりとりや相談が共有できればとの思いもあり研修会の開催に至りました。逗子市・葉山町だけでなく、鎌倉市・横須賀市・三浦市などから、2日間で46名のご参加をいただきました。また市役所会議室の使用のご協力など、市役所地域共生系の方々にも改めてお礼申し上げます。(小川)



2023年度の専門相談 総数

リハビリテーションに関する総合相談・情報提供・技術的支援などを、地域の支援者と一緒に行います。

お困りごとがありましたら、ぜひ専門相談をご利用ください。

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷(除くCVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切断・加齢等)	不明	合計
県央	11(1)	1	5		2	4(1)	37(16)	10	2		72(18)
湘南東部	1						3(1)	5	1		10(1)
湘南西部	8	1	2			1		5	1		18
県西	2	1	3		1		6(1)	2			15(1)
横須賀・三浦	1	1	2				5(3)	8	4	3	24(3)
横浜市	2		2	1	1		3	21			30
川崎市								3			3
相模原市	1		1				2	4	1		9
県外				2					1		3
合計	26(1)	4	15	3	4	5(1)	56(21)	58	10	3	184(23)

()の数字は訪問数

	障害者更生相談所	居宅介護支援事業所	市町村	地域包括支援事業所	本人・家族	障害者相談支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護事業所	保健福祉事務所	高齢者施設	訪問介護事業所	教育機関	その他	合計
県央	1	3		1	17(1)		40(16)	3	1	2	4(1)				72(18)
湘南東部					4		3(1)	2			1				10(1)
湘南西部		4			6	1	1	1		3	2				18
県西		1			2	2	2(1)	1	3	4					15(1)
横須賀・三浦		1		9	4		5(3)			4				1	24(3)
横浜市				2	23		2	3							30
川崎市					1	1		1							3
相模原市			1		5		2		1						9
県外					3										3
合計	1	9	1	12	65(1)	4	55(21)	11	5	13	7(1)	0	0	1	184(23)

リハビリテーション専門研修

地域リハ支援センターでは、医療職・福祉職・介護職の方を対象とした研修会をさまざまなテーマで開催しています。また座学だけでなく、体験や実技練習・グループワークなどを交えて、より理解が深まるような工夫をしています。

昨年度も感染対策にご協力をいただき、無事に全21コースを対面形式で開催することができました。

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました！ 本年度もよろしくお願いいたします。

2024年 6月～7月までの研修会予定



ご参加
お待ちしております♪

1	からだにやさしい介助入門	6月 1日(土)	厚木看護専門学校
2	ポジショニング入門	6月12日(水)	ウイリング横浜
3	高次脳機能障がいセミナー 小児編	6月29日(土)	神奈川工科大学ITエクステンションセンター
4	セラピストのためのハンドリング入門	7月 6日(土)	神奈川リハビリテーション病院
5	在宅における循環機能低下のリスク管理	7月27日(土)	神奈川リハビリテーション病院



各研修は、研修日の約2ヶ月前からお申し込みを受け付けます。
ホームページのお申し込みフォームまたはFaxにてお申し込みください。

高次脳機能障害 事例検討会 In 藤沢

令和6年2月28日に藤沢市のチャレンジIIさんとオンラインでの事例検討会を開催しました。今回はケアマネジャーさんから事例提供をしていただき、22名の方にご参加いただきました。オンラインでは、対面と違い音声確認や画面設定等の準備が必要になり、想定外のことでうまく進行できないことや「場の空気感」を感じにくいやりづらさがあると思います。また、画面越しのため疲労を強く感じるという声もありますが、参加しやすさはオンラインの大きなメリットになると思います。今回は15時からの開催となり、日々の業務を考慮すると対面では参加しづらい時間ですが、オンラインのため参加しやすい側面があったように感じます。

事例検討会では、介護保険関係の支援者の方から、障害福祉サービスや就労支援について知識がないのでわからないという意見が出ていました。高次脳機能障害の支援では、医療、介護、障害、就労と多職種で関わる必要がありますが、日々の業務ではそれぞれの専門性をいかして支援されていることが多く、今回のようなご意見が出て当然だと思います。このような事例検討会を通して、多職種の視点や社会資源等の高次脳機能障害の支援のポイントを知らせていただくきっかけになればと考えております。事例検討会では、事例提供者から概要を100字程度でお話いただき、アセスメント⇒一問一答⇒プランニングの順で進めます。アセスメントやプランニングのグループワークを通して、多職種の視点等を知っていただくことにつながると考えています。

当事者・ご家族にとってよりよい支援に結びつけるためには、一人で抱え込まず、皆で考えることから生まれるアイデアもあると思います。事例検討会やカンファレンスの開催、個別の相談等につきまして、お気軽にご相談いただければと思います。多職種での連携を意識しながら、今後も事業を行いたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。(佐藤)

編集
後記

今年は数年ぶりに花粉症がひどく、薬を手放せません。できれば外に出たくありませんが、外遊びが大好きな孫のために週末の散歩だけは特別です。元気に遊ぶ姿は、来週の仕事の活力になります。(有馬)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602
FAX 046-249-2601